

2026年6月15日(月)

老球の細道927

### ミニバスケット・サマーカップ会津地区大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

82歳になっても現役コーチで活躍する元長崎鶴鳴女子高校の監督・山崎純男氏の著書『チームを創る』(日本文化出版)にこんなことが書いてある。

「もっとも安心して見ていられるチームは、セットオフenseで確実に点を取れる組織プレイを持っているか、確実に点を取れる強い選手を持っている」

ミニバスサマーカップ会津大会は接戦、番狂わせが多い中、男子の坂下ミニチームは安定したチーム力と豊富な選手層で、新人戦に引き続き圧巻の優勝を成し遂げた。多くのチームが一部のタレント選手の攻撃力とトランジションオフenseに頼る中で、チームのコンセプトによるハーフコートオフenseを持ち、速攻が出なくとも、ボールが止まらず、人が止まらないチームオフenseで周囲を魅了する安定した攻撃を見せていた。ここぞという時は、それぞれの個人技も発揮し、まさに山崎氏が言う安心して見ていられるチームであった。

坂下チームのゼネラルマネージャー鈴木新氏は長崎鶴鳴高校が全国制覇を達成していた二十数年前に、仕事の折に長崎まで山崎氏を訪ね、バスケットボールの指導について教えを受けている。その当時の勉強が今でも役に立っていることを鈴木氏は私に熱く説く。昨年磐梯ミニバスチームが県大会優勝を成し遂げ全国大会出場を果たしたが、今年は坂下ミニバスチームに期待がかかる。

「たゆまざる 歩みおそろし かたつむり」でじっくり育ててほしい。

ところで、高校地区大会もミニバス大会も同じであったが、なかなか壁を破れないチームにはオフenseに限ると3つの技術的特徴があると思う。

① **シュート入らない**：そもそもシュートフォームが悪い。原因はフォームがメチャクチャで安定しない。安定しないフォームはノーマークでも落とすし、デイフェンスにつかれた状態では、ジャンボ宝くじに当選するよりもシュートを決めることはむずかしい。

② **個人のボールキープ力が弱い**：バスケットボールにおいて最も大切な宝物はボールである。最も大切な物を相手に簡単に取られてしまう。パスをレシーブ、リバンドをキャッチ、ドリブル中などで。そして取られても平気で何度も繰り返す。これがもし現金だったり、宝石だったり、今はやりのシールだったりしたらどうするのだろう。

③ **パスキープ力、パスワーク力が弱い**：弱いチームが初めに会う試練はフロントコートまでボールを運べないということである。一人でドリブルで運べる選手がいないチームはパスで運べなければならない。パスが弱い、パスをもらいに行かない、パスがキャッチできない。チームオフenseを安定させるにはパスキープ、パスワークに熟練しなければならない。

最後に、バスケットボールは相対的なスポーツである。現在強いと思われるチームでもさらに強いチームと対戦すると、弱いチームと同じように上記の三つの課題に悩まされるだろう。現状に甘んじることなく常に基本にかえって練習してほしい。